公益財団法人　小児医学研究振興財団

平成30年度　市民公開講座

親子の係りと子どもの発達
～子どもの脳を育む～

【報　告　書】

日時　2018年11月25日（日）13:00～16:00

場所　東京都世田谷区烏山区民会館

「市民公開講座を終えて」

座長：**奥山　眞紀子**　（国立成育医療研究センター：こころの診療部長）

平成30年度の市民公開講座は、世田谷区の協力を得て、「親子の係りと子どもの発達～子どもの脳を育む～」と題して行った。参加希望者が多く、事前登録でお断りしなければならない状況であった。また、世田谷区民のみならず、東京都全域や神奈川県からの参加も多かった。

長谷川哲夫氏からは、児童相談所を設置する予定の世田谷区として親子支援をどのように進めているかをご説明頂き、友田明美教授からは親子の係わりの問題が脳に及ぼす影響を科学的のみならず、臨床的にも語っていただき、氏家武先生からはスマホの利用と弊害に関して、井上登生先生からは親子関係の支援の実際についてわかりやすくご説明いただいた。

アンケートでは、全ての講演に関して多くのポジティブなフィードバックを頂いた。更に、ディスカッションに関しては、事前のご質問への回答も好評であったが、最後にフロアの実際に子育てに困っている方からの具体的な質問に講師からの温かい回答があり、ほのぼのとした雰囲気の中で講座を修了することが出来た。

●主催（公財）小児医学研究振興財団　●共催（公社）日本小児科学会

○後援：厚生労働省、世田谷区、世田谷教育委員会、(一社)世田谷区医師会、(公社)日本小児科医会
(公社)日本小児保健協会、(公財)母子衛生研究会、(一社)日本保育保健協議会、(公財)日本学校保健会
(一社)日本学校保健学会、(一社)日本小児精神神経学会、(一社)日本小児心身医学会
(一社)日本子ども虐待防止学会

○協賛：日本マクドナルド(株)、ファイザー(株)

子育てを担う家族の環境は急速に変化してきており、親子関係にも多くの影響を与えています。世田谷区では、子ども人口が増加しており、児童相談所も開設されることになっています。そこで、親子関係の臨床と研究の最先端を担う小児科医と区の行政担当の方とともに、親子の係わりと子どもの発達について語り合える場を提供することを目的に本市民公開講座を企画いたしました。

講演1 児童相談所の開設を見据えた新たな親子の係りへの支援

長谷川 哲夫　世田谷区子ども・若者部児童相談所開設準備担当課長

平成4年　世田谷区役所入庁
平成29年度より児童相談所の開設準備を担当

●親子関係と、子どもの発達の関連について様々な研究が行われる中、その成果がフィードバックされる最前線として、世田谷区をはじめとする都内の特別区は、地域の中の子育てサービスや、子育て相談などの施策を展開してきました。その最前線において、今、戦後以来の大きな変革の時期を迎えようとしています。

●2016年の児童福祉法の改正において、児童は、適切な養育を受け、健やかな成長・発達や自立が図られ、それらを保障される権利を有することなどが明確にされました。また、その実現の手段の一環として、特別区も児童相談所を設置できることとされました。この法改正を受け、世田谷区は、2020年4月以降早期の開設を目標として、児童相談所設置に向けた準備を進めています。

●特別区の児童相談所開設は、区民に最も身近な区が、その地域にふさわしい親子関係支援のあり方を考え、再構築に取り組むことにほかなりません。特別区が児童相談所の運営と、子育て支援を同時に担うことで、親子の問題を早期に把握し、児童相談所の専門的な相談機能と、身近であたたかなサービスを組み合わせた予防型の親子支援が可能となります。児童虐待等の問題の未然防止が徹底され、あたたかく子育てを支える地域社会の実現を目指し、具体の準備を進めてまいります。

講演2 親子の係りが脳に与える影響 ―アタッチメント（愛着）の視点から―

友田 明美　福井大学子どものこころの発達研究センター 発達支援研究部門　教授・副センター長

1987年　熊本大学医学部卒業
1992年　熊本大学医学部附属病院発達小児科助手
2003年～2005年
　文部科学省在外研究員（米マサチューセッツ州マクリーン病院発達生物学的精神科学研究プログラム），
　ハーバード大学医学部精神科学教室客員助教授
2006年　熊本大学大学院医学薬学研究部小児発達学分野准教授
2011年　福井大学大子どものこころの発達研究センター教授
　同 附属病院子どものこころ診療部長（兼任）
2009年～2011年・2017年～
　日米科学技術協力事業「脳研究」分野グループ共同研究日本側代表

資格　日本小児科学会専門医・指導医、
　日本小児神経学会専門医、
　日本小児精神神経学会認定医、
　子どものこころ専門医機構認定子どものこころ専門医
専門　小児発達学，小児精神神経学，社会融合脳科学
著書　「虐待が脳を変える―脳科学者からのメッセージ」新曜社 2018年
　「子どもの脳を傷つける親たち」NHK出版 2017年
　「新版 いやされない傷―児童虐待と傷ついていく脳」診断と治療社 2012年 ほか

演者は、虐待など小児期の不適切な養育経験と「傷つく脳」との関連を脳画像で解明した。例えば、暴言虐待による「聴覚野の肥大」、性的虐待や両親の家庭内暴力（DV）目撃による「視覚野の萎縮」、厳格な体罰による「前頭前野の萎縮」などを明らかにした。

虐待を受けて育ち、養育者との間に愛着が上手く形成できなかった愛着障害の子どもは、報酬の感受性に関わる脳の「線条体（報酬による意思決定や、失敗から課題を学び取る力に関わる脳部位）」の働きが弱いうえ、その発達が阻害される時期（感受性期）は生後1-2歳にピークがあることも突き止めた。

こうした脳の傷は「後遺症」となり、将来にわたって子どもに影響を与える。トラウマ体験からくるPTSD、記憶が欠落したりする解離など、その影響は計り知れない。これらの症状に対して適切な治療を施さなければ、うつ病の発症や自殺行為、衝動的な行動につながることがあり、薬物やアルコール依存のほか、性犯罪の加害者にも被害者にもなりうる。

児童虐待への曝露が脳に及ぼす数々の影響を見てみると、人生の早い時期に幼い子どもがさらされた想像を超える恐怖と悲しみの体験は、子どもの人格形成に深刻な影響を与えずにはおかない。しかし、子どもの脳は発達途上であり、可塑性という柔らかさを持っている。早いうちに手を打てば回復することが我々の研究から分かってきた。そのためには、専門家による心理治療やトラウマに対するこころのケアを、慎重に時間をかけて行っていく必要がある。

近年、人生の最初期における愛着形成、信頼の形成が人間の発達にとって決定的に重要であるとの認識が広まっていることはとても意義深い。というのは、そこから生まれてくるのは子どもたちに対する視点だけではなく、同時に、親になった者たちの困難さにも寄り添うことにつながるからだ。

「虐待の連鎖」が言われて久しいが、3分の2の被虐待児たちは自らが親になって虐待しないという事実にも目を向けてほしい。現代社会には、育児困難に悩む親たちを社会で支えること、子育て困難家族の脇にいて共に（伴に）寄り添う"とも育児（きょうどう子育て）"が必要である。「将来を担う子どもたちを社会全体で育て守る」という認識が、広く深く浸透することを願ってやまない。

座長 奥山 眞紀子　国立成育医療研究センターこころの診療部長

医学博士、小児科専門医、子どものこころ専門医、日本小児精神神経学会認定医
東京慈恵会医科大学卒業、同大学院博士過程修了。睡眠の研究で博士号取得。埼玉県立小児医療センター神経科医員を経て、米国ボストンのタフツ大学附属病院小児精神科へ留学。留学中、ボストンカレッジにて、小児思春期カウンセリング学修士号取得。
帰国後、埼玉県立小児医療センターで精神保健を担当し医長、副部長を経て、2002年3月、国立成育医療センター（2010年度より独立行政法人 2015年度より国立研究開発法人 国立成育医療研究センターに名称変更）こころの診療部長となり、現在に至る。
2014年5月より2017年3月まで特命副院長を兼任。
2018年度より統括部長と名称変更。

専門　小児精神保健、子ども虐待、子どものトラウマなど。
NPO法人埼玉子どもを虐待から守る会会長、日本トラウマティックストレス学会理事長、厚生労働省「新たな社会的養育のあり方検討会」座長等を歴任。
現在は、日本小児科学会理事、日本子ども虐待防止学会（JaSPCAN）理事長、日本小児精神神経学会常務理事、社会福祉法人子ども虐待防止センター理事、NPO法人埼玉子どもを虐待から守る会理事、日本学術会議連携会員、厚生労働省厚生科学審議会疾病対策部会「臓器移植委員会」専門委員、厚生労働省社会福祉審議会児童部会「社会的養育専門委員会」委員等の役職を務めている。

編著書　「子ども虐待の臨床」（南山堂）、「病気を抱えた子どもと家族の心のケア」（日本小児医事出版社）、「アタッチメント」（明石書店）、「子どもの心の診療医になるために」（南山堂）、「虐待を受けた子どものケア・治療」（診断と治療社）など。

講演3 スマホ時代の子育て ～スマホに依存する子育ての落とし穴～

氏家 武　医療法人トルチュ氏家記念こどもクリニック院長

1980年3月　北海道立札幌医科大学医学部卒業
1980年4月1日～　北海道立札幌医科大学付属病院小児科
1982年4月1日～　東海大学医学部付属病院精神科
1985年4月1日～　札幌市南保健所
1987年1月1日～　ロンドン大学付属精神医学研究所
1989年4月1日～　社会福祉法人北翔会札幌あゆみの園
1991年6月1日～　北海道立札幌肢体不自由児総合療育センター
1994年4月1日～　社会福祉法人楡の会こどもクリニック
1999年4月1日～　医療法人北海道こども心療内科氏家医院
2017年5月1日～　医療法人トルチュ氏家記念こどもクリニック

所属学会　日本児童青年精神医学会、日本小児科学会、日本小児精神神経学会など

スマートフォンは今や世界中に広まり、これによって離れた場所にいても容易に外部に向けて情報発信を行ったり、知りたい情報を瞬時に収集できるようになり、現代人にとって必要不可欠な道具となっている。子育てにおいても、我が子の成長ぶりを写真に撮って離れた家族に送って喜びを共有したり、家族に相談できない迷いについて他人から助言を受けて助けられることもあるだろう。また、多彩な育児用アプリや幼児向けの知育アプリも開発されており、それらを利用する子育ても盛んに行われるようになっている。

一方、子どもの育ちに関しては、従来から親子が直接触れ合い五感を働かせた遊びを体験することで健全な発育が促されると言われてきた。そのようなことから、スマートフォンを利用した画面上の絵本や歌のアプリで長時間遊ばせたり、アニメなどの動画を長時間見せるようなことは、それと同等のものと言えるのだろうかという疑問が湧いてくる。

子どものこころは親子関係を基本にした情緒的対人交互作用の中で発達する。特に乳幼児期に、親が子どもの情動に調律して関わることが情緒発達の重要な鍵になる。また、身体感覚や認知機能の発達が不十分な幼児は、現実と仮想世界との違いを正しく認識することが難しい。非現実の出来事を現実のものとして受け止めてしまえば、身体感覚や認知機能の発達を歪めてしまうおそれがある。また、乳幼児の情緒的コミュニケーションは、機械的な音声言語だけでは育たない。親子の言語的コミュニケーションと情緒的コミュニケーションの双方が重複することによって初めて親子のコミュニケーションが完成する。このようなことを考慮すれば、スマートフォンに頼り過ぎる育児には慎重な配慮が必要ではないかと思われる。やはり、育児の基本は、人との直接的な触れ合いや自然の中での遊びを通して子どもを育てることではないだろうか。

講演4 親子の係りへの支援の実際

井上 登生　医療法人井上小児科医院院長

1983年　福岡大学医学部卒
1987年　英国ロンドン大学児童・青年期精神医学部門：Diploma of Child and Adolescent Psychiatry 取得
1992年　福岡大学医学部小児科助手
1994年　井上小児科医院院長
2010年　福岡大学臨床教授（小児科学）

専門　小児科専門医、発達行動小児科学、地域小児科学

社会活動　日本小児科学会会員（専門医）、
　日本子ども虐待医学会理事、
　日本子ども虐待防止学会代議員、
　日本小児精神神経学会代議員、大分県小児科医会理事、
　北部圏域ヘルシースタートおおいた地域推進専門部会会長、
　中津市子ども・子育て会議会長、
　中津市要保護児童対策地域協議会副会長

著書　子どもの心の診療医になるために（共著、南山堂）

親子の係りの支援は、子育てを通じて保護者が感じる「育ちにくさ」や「育てにくさ」に共感し、ともに考えることから始まります。開業小児科医には、乳幼児健診や予防接種、日頃の診療、園医・学校医活動などを通じて、このような相談を受けたり、直接感じたりする機会が多くあります。一方、市町村の母子保健担当の保健師さんは、乳児全戸訪問事業や新生児訪問事業、養育支援訪問事業などで直接家庭訪問を行い、保護者と子どもが生活する空間で支援をすることができます。また、園や学校の先生方も様々な行事や家庭訪問などを通して、保護者や親族の方たちとも出会う機会があります。

直接子どもの養育を行う保護者とその保護者の困り感を支援する仲間としての市町村保健師や開業小児科医、保育所・幼稚園や学校の担当などが、支援の内容は立場の違いから様々な内容があったとしても、子どもと保護者のニーズを常に中心に考えながら、支援指針の方向性については、支援者間の顔の見える連携により同じような視点を持つことが重要です。

当日は、大分県中津市で保健・医療・福祉・学校の現場へのアウトリーチを多く実践してきた25年目の開業小児科医として、皆さんとともに「親子の係りの支援」を考えてみたいと思います。

講演1

児童相談所の開設を見据えた
新たな親子の係りへの支援

世田谷区　子ども・若者部
児童相談所開設準備担当課長
長谷川　哲夫

3. 児童相談所とは(2)

●18歳未満の子どもの様々な相談に応じます(専門相談)

<養護相談>
保護者の病気、死亡、家出、離婚などの事情で子供が家庭で生活できなくなったとき。虐待など、子供の人権にかかわる問題があるとき。

<育成相談>
わがまま、落ち着きがない、友達ができない、いじめられる、学校に行きたがらない、チック等の習癖、夜尿などで心配なとき。

<障害相談>
知的発達の遅れ、ことばの遅れ、肢体不自由などがあるとき。愛の手帳(療育手帳)を取得したいとき。

<非行相談>
家出、盗み、乱暴、薬物の習慣などがあるとき。

<里親に関する相談>
里親として家庭で子供を育てたいとき。

東京都では、子ども家庭支援センター(区市町村)を児童相談の一義的窓口とし、児童相談所(東京都)を専門性の高い困難事例の対応窓口としながら、児童虐待に対して連携して取り組んでいます。

1. 親子の係りへの支援の最前線

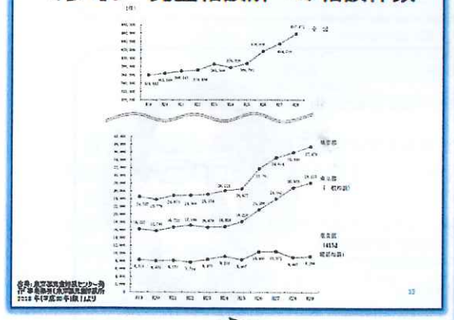
親子の係りと子どもの発達の研究

子育ての正しい知識、正しい理解の最前線へのフィードバック

<世田谷区>
(都内23区(特別区))
地域の中の子育ての支援サービス、子育て相談など

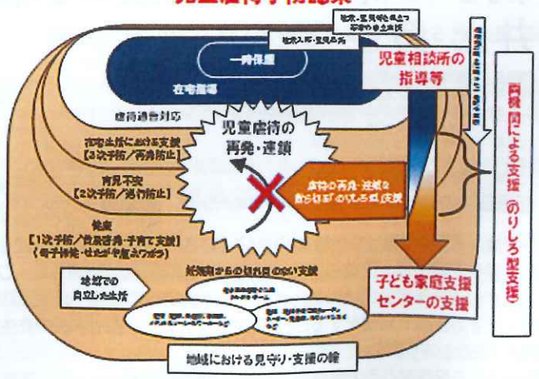
子どもの権利が保障された
健やかな成長を支えるための支援へ

<参考> 児童相談所への相談件数



9 世田谷区の予防型の児童相談行政の構築(2)

子ども家庭支援センターと児童相談所が一体となった
児童虐待予防施策

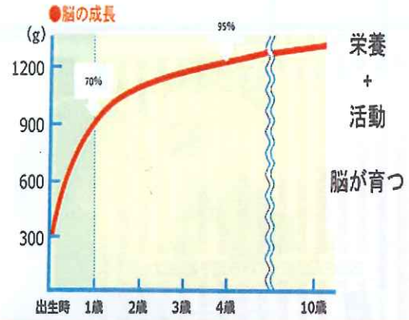


＊別紙拡大資料有（P.11～12）

講演2

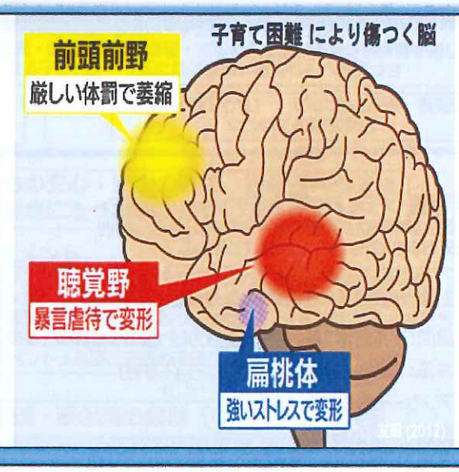
乳幼児期に脳が育つ

脳は1歳で大人の約70%に成長！



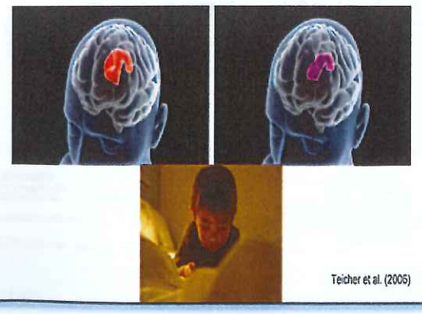
栄養
＋
活動
脳が育つ

子育て困難により傷つく脳



ながら育児（ネグレクト）で右脳と左脳をつなぐ脳梁の容積が小さくなる

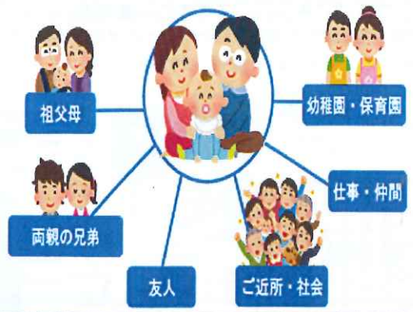
健常者　　ネグレクト経験者



Teicher et al. (2006)

共同子育て（とも育て）が必要

その家族の脳にいて共に（伴に）寄り添う



講演3

＜生活習慣・メディアに関するアンケート調査＞
佐藤和夫（国立病院機構九州医療センター小児科医長、九州大学小児科臨床教授、日本小児科医会子どもとメディア委員会員）

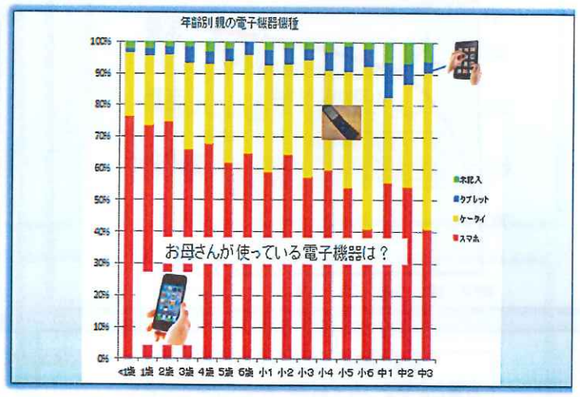
対象：小児科外来を受診されたお子さんのご家族

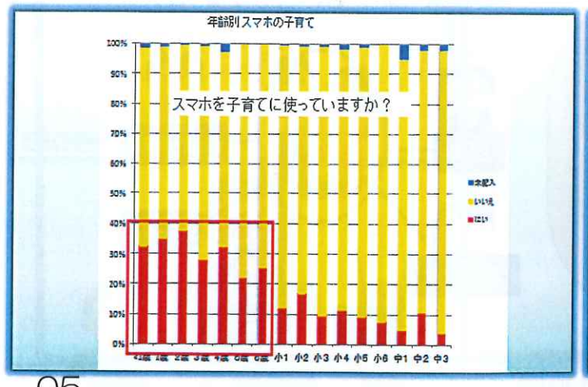
期間：平成25年7月　（1施設300例まで）

方法：アンケート用紙に記入（次スライド参照）

アンケート実施施設：19施設

総数　2998例





アンケートで多かった子育てアプリ一覧

YouTube	しまじろう
いないいないばあ	アンパンマン
泣きピタ	ゲーム
ひらがな、数字	予防接種スケジュール
見から電話	離乳食レシピ

講演4

市区町村における支援について

市区町村における子ども家庭相談の流れ

ポピュレーション・アプローチとしての
乳児家庭全戸訪問事業・乳幼児健康診査等・学校教育における家庭訪問等を通しての
「気になる子ども」・「気になる妊婦・養育者」への気づき

↓

「気になる子ども」・「気になる妊婦・養育者」
についての相談受理

⇩

子どもの安心・安全の確認、養育者への支援
の視点にたった家族全体のアセスメント

⇩

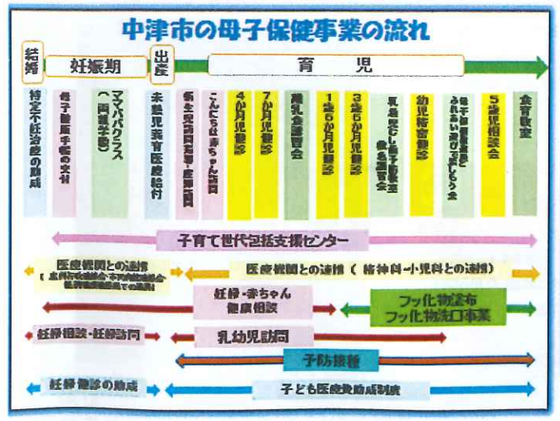
初期アセスメント

①緊急度アセスメント：「子どもの安全にかかわる危機」の有無の確認
②リスクアセスメント：「子どもの安全にかかわる危機が現時点では起こっていないが、近い将来起こる可能性があり、それが子どもに対して重大な危害を及ぼす可能性がある」の有無の確認
③ニーズアセスメント：必要な支援の確認

⇩

要支援・要保護の段階（グレード）の決定

中津市の母子保健事業の流れ



＊中津市子育て世代包括支援センター

～～妊娠・出産・育児に関する 総合相談窓口～～

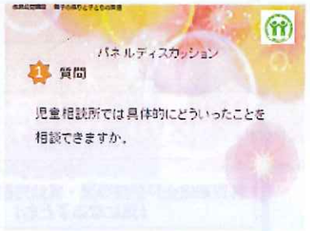
保健師等の専門職が、妊娠・出産等についての疑問や質問などのご相談をお聞きし、母子保健サービスや子育てについての情報を紹介します。また、必要に応じて医療機関や子育て支援機関と連携しながら、切れ目のないサポートを行います。「こんなことを聞くのもどうかなぁ」といったちょっとした質問・不安などもお気軽にご相談ください。

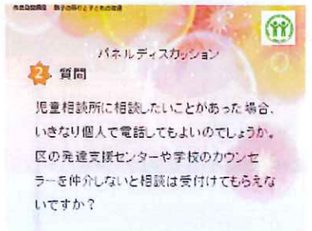
＊別紙拡大資料有（P.13～14）

第2部

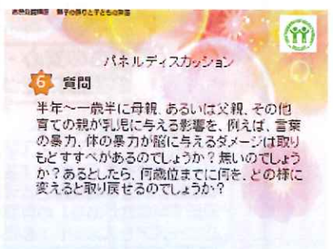
パネルディスカッション

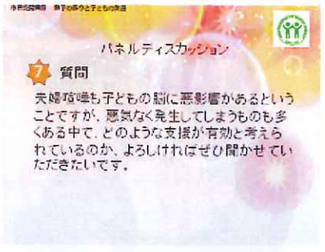
世田谷区への質問



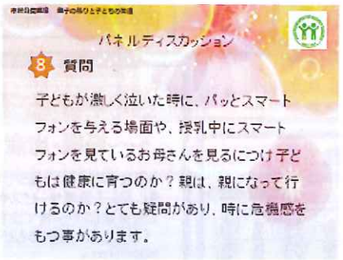


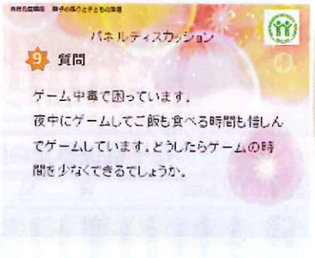
親子の係りが脳に与える影響



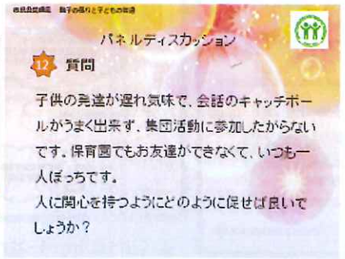


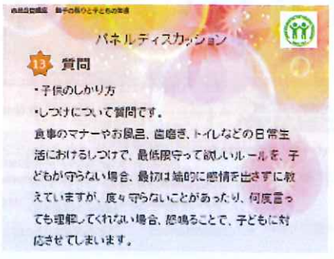
スマホ時代の子育て





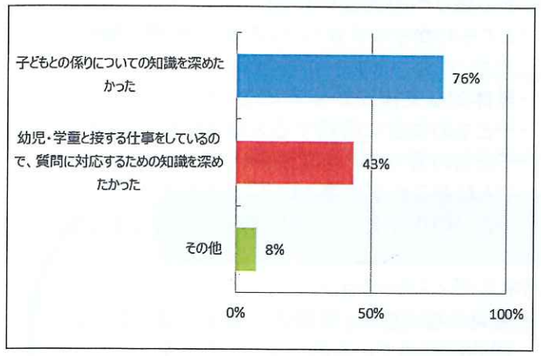
親子の係りへの支援の実際



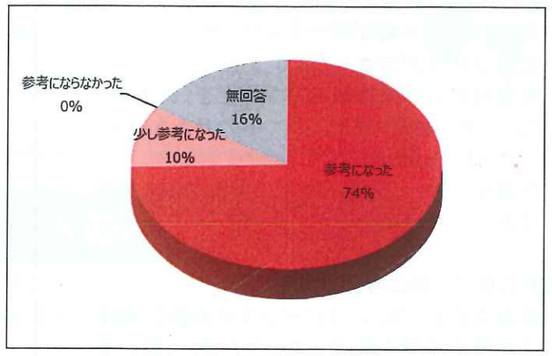


アンケート結果

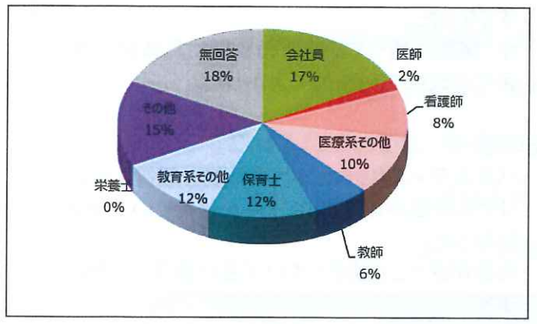
講座に参加した理由



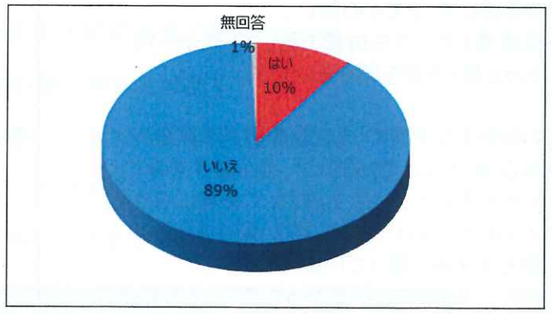
本日の講座は参考になりましたか



職　　業



過去に当財団の講座を聴講されたことはありますか



展　示（後援・協賛団体ポスター）・過去の市民公開講座

後援・協賛社ポスター、過去の市民公開講座パネルディスカッションの回答を掲示しました。

アンケート結果から、多くの方より「参考になった」「少し参考になった」との回答を得られました。また、当財団の市民公開講座に継続して参加されている方がいることもわかりました。

財団では、今後も小児医療情報の啓発活動をさらに充実させるよう、努力してまいります。
賛助会員の皆様は、本講座の動画をホームページにてご覧いただけます。

アンケート結果

児童相談所の見据えた新たな親子の係りへの支援

- 児相設置の本質が聞けてよかった。
- 他区の状況が分かってよかった。
- 児童相談所開設は負の連鎖などをくい止めなど、長い視野・目的にたつものであるということがわかった。
- 支援センターと児童相談所の関係を知る事ができた。

親子の係りが脳に与える影響

- 率直で迫力があり、エビデンスが力強く、ますます研究成果を学ばせていただきたく思いました。
- 最先端の情報をつめこんでくださり、ありがとうございます！
- 大変参考になりました。あたたかく見守ってくださる感じで、とても心強い。
- 保護者と同じ立ち位置で話していただいて、もっと長くお話を聞きたいです。

スマホ時代の子育て（スマホの利用と弊害）

- 私自身は与えていないが、周りの子をみてやりたがるので、対応方法として参考になった。
- スマホアプリの「鬼から電話」驚きました。親もスマホに頼っている。
- 初めて知ったことが多かったので、とても参考になった。
- ちょうど一緒に来ていた主人のスマホの利用が多いことが気になっていたので、少しでもスマホを見ている時間が少なくなればと思いました。

親子の係りへの支援の実際

- とてもわかりやすかった。こういうのを一番知りたかった。
- 具体的な支援法が参考になった。
- 子どもの動きに同調する大切さを思い出した。
- 子どもの言っている言葉をくり返す、何気ないことだがこれが大事ということがわかった。
- 小さい頃の対応がいかに重要かわかりました。

パネルディスカッション

- 時間のないなか、質問の一覧を作成して、合理的に進めているのがよかったです。
- 本当に悩んでいる人が相談できてよかったと思います。
- 会場からの質疑応答がよかったです。
- 実例にそって答えを聞くことにより、より考えやすくなった。
- 今、実際に困っている方の質問に具体的に答えてくださっていたのでよかった。

その他

- パネルディスカッションは具体的な親御さんのリアルな悩みに専門の先生が答えていて参考になった。
- 内容がぎっしり詰まっていて良い講座だと思います。
- 直接話をきくのは、本を読んで知識を得るのとは違う。
- 親に対しての具体的なサポートの仕方がよくわかった。
- 養育者との適切な関りが、いかに大切であるか学ぶことができ、どのような影響が出るのか具体的に知ることができた。
- 子どもの発育発達にかかわっている方の話を聞くことができたので。
- 子どもの脳への影響の知識・データ等・日常の育児を研究という視野で考えることができ、新しい情報を得ることができました。
- 子どもへの接し方について、具体的なアドバイスとその効果について理解できた。

- 子どもに関わる全ての職員に自分の言葉で伝えたいと思った。
- 児相の事etc自治体職員として興味があった。
- 言葉の遅れがある子に対する事で実行してみようという思いになり、発達障害と決めつけることは少し先にしてみようと思った。
- 大変勉強になりました。今後も参加できる時は参加したいです。
- キャンセル待ちで参加させていただき、ありがとうございました。今日勉強したことを、家族会などでも話し合っていきたいと思います。
- ありがとうございました。会場でも子どもがしゃべっていてもよい環境がとても良かったです。

賛助会員のご加入のお願い

当財団は、小児医学研究を支援するため、

日本小児科学会創立100年記念事業の一環として平成20年に設立されました。

活動は日本小児科学会と密接に連携して行っております。

小児科医・小児医学研究者の研究助成・海外留学助成・優秀論文表彰

市民公開講座の開催は、寄附金及び賛助会費で賄われおり、

多くの方々のご支援をお願い申し上げます。

ご加入については、事務局にお申し出頂ければ「加入申込書」を

送付させていただきます。

よろしくお願い申し上げます。

賛助会費は、所得控除
または税額控除を受けられます。

- **個人:1口/年10,000円**
- **法人:1口/年100,000円**

- **申込・問い合わせ先**

(公財)小児医学研究振興財団事務局
〒110-0015　東京台東区東上野3－32－2　廣瀬ビル4B
TEL:03－5818－2601　　FAX:03－5818－2602
e-mail:shouni-iken@jfpedres.or.jp
URL:http://www.jfpedres.or.jp/

3. 児童相談所とは(2)

●18歳未満の子どもの様々な相談に応じます(専門相談)

<養護相談>

保護者の病気、死亡、家出、離婚などの事情で子供が家庭で生　活できなくなったとき。虐待など、子供の人権にかかわる問題があるとき。

<育成相談>

わがまま、落ち着きがない、友達ができない、いじめられる、学校に行きたがらない、チック等の習癖、夜尿などで心配なとき。

<障害相談>

知的発達の遅れ、ことばの遅れ、肢体不自由などがあるとき。愛の手帳(療育手帳)を取得したいとき。

<非行相談>

家出、盗み、乱暴、薬物の習慣などがあるとき。

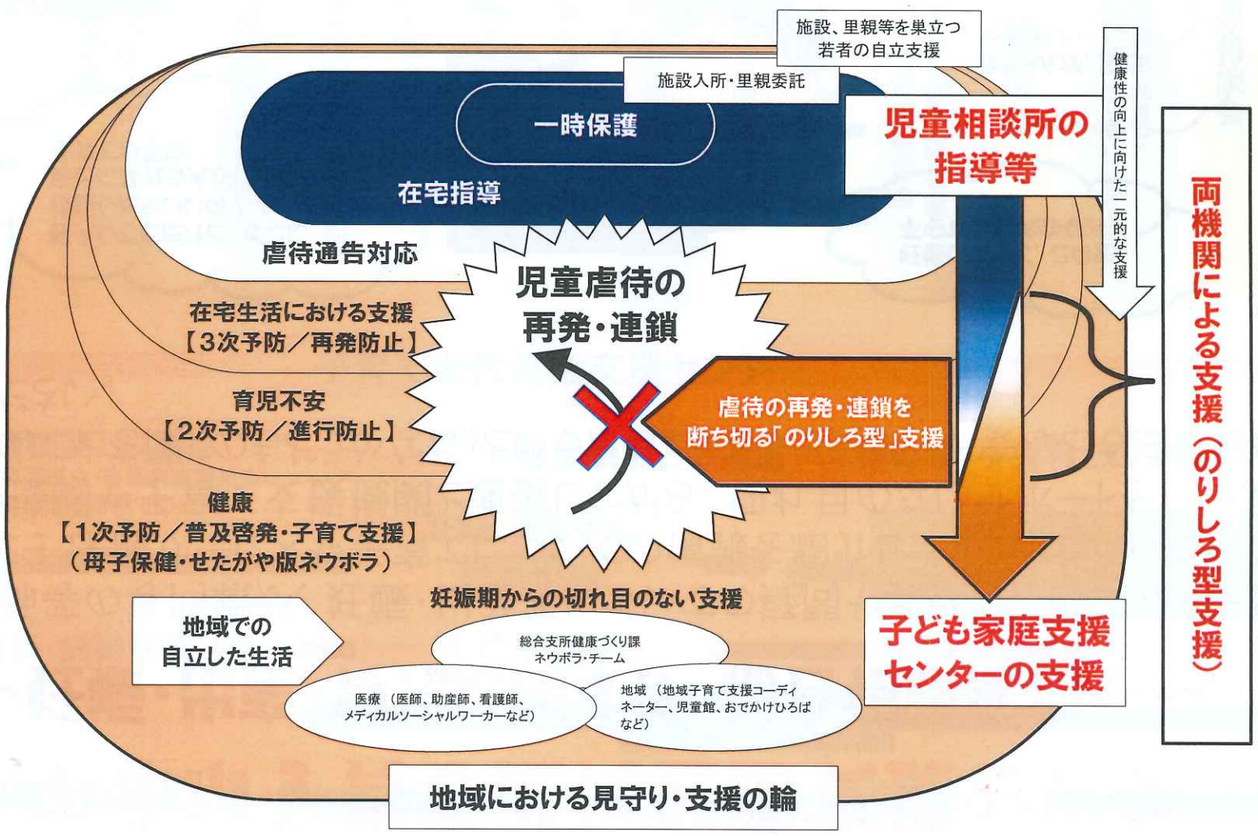
<里親に関する相談>

里親として家庭で子供を育てたいとき。

東京都では、子ども家庭支援センター(区市町村)を児童相談の一義的窓口とし、児童相談所(東京都)を専門性の高い困難事例の対応窓口としながら、児童虐待に対して連携して取り組んでいます。

9　世田谷区の予防型の児童相談行政の構築(2)

子ども家庭支援センターと児童相談所が一体となった児童虐待予防施策



＊中津市子育て世代包括支援センター

～～妊娠・出産・育児に関する　総合相談窓口～～

保健師等の専門職が、妊娠・出産等についての疑問や質問などのご相談をお聞きし、母子保健サービスや子育てについての情報を紹介します。また、必要に応じて医療機関や子育て支援機関と連携しながら、切れ目のないサポートを行います。「こんなことを聞くのもどうかなぁ」といったちょっとした質問・不安などもお気軽にご相談ください。

中津市の母子保健事業の流れ

結婚 → 妊娠期 → 出産 → 育児

- 特定不妊治療の助成
- 母子健康手帳の交付
- ママパパクラス（両親学級）
- 未熟児養育医療給付
- 新生児訪問指導・産婦訪問
- こんにちは赤ちゃん訪問
- 4か月児健診
- 7か月児健診
- 離乳食講習会
- 1歳6か月児健診
- 3歳6か月児健診
- 乳幼児むし歯予防教室　救急講習会
- 幼児精密健診
- 母子保健推進員とふれあい遊びで楽しもう会
- 5歳児相談会
- 食育教室

子育て世代包括支援センター

医療機関との連携（産科行政連絡会・市民病院連絡会・継続看護連絡票での連携）

医療機関との連携（精神科・小児科との連携）

妊婦・赤ちゃん健康相談

フッ化物塗布
フッ化物洗口事業

妊婦相談・妊婦訪問

乳幼児訪問

予防接種

妊婦健診の助成

子ども医療費助成制度

http://www.jfpedres.or.jp/

小児医学研究振興財団

公益財団法人
小児医学研究振興財団
〒110-0015　東京都台東区東上野3-32-2
廣瀬ビル4B
TEL：03-5818-2601　FAX：03-5818-2602
E-mail：shouni-iken@jfpedres.or.jp